

株式会社ビーイング 決算説明会資料

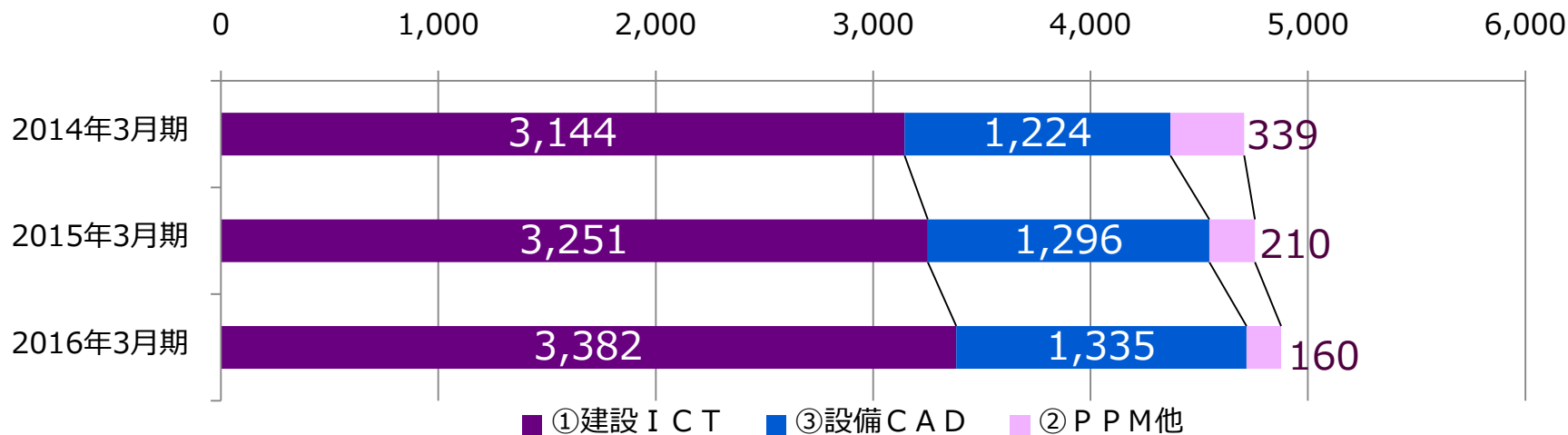
2016年6月9日
JASDAQ : 4734

BEING

グループの事業概要

会社	セグメント	事業	主な商品
ビーイング (三重県津市)	建設関連	①建設 I C Tソリューション	土木工事積算システム 工事情報共有システム 見積、原価管理システムなど
		② P P Mソリューション他	工程管理システムなど
プラスバイプラス (大阪市北区)	設備関連	③設備 C A Dソリューション	電気設備 C A D 水道設備 C A Dなど
非連結子会社 及び関連会社	Being Myanmar (ミャンマー連邦共和国) Progressive Labs (イスラエル)		ソフトウェアの受託開発 ソフトウェアの開発・販売

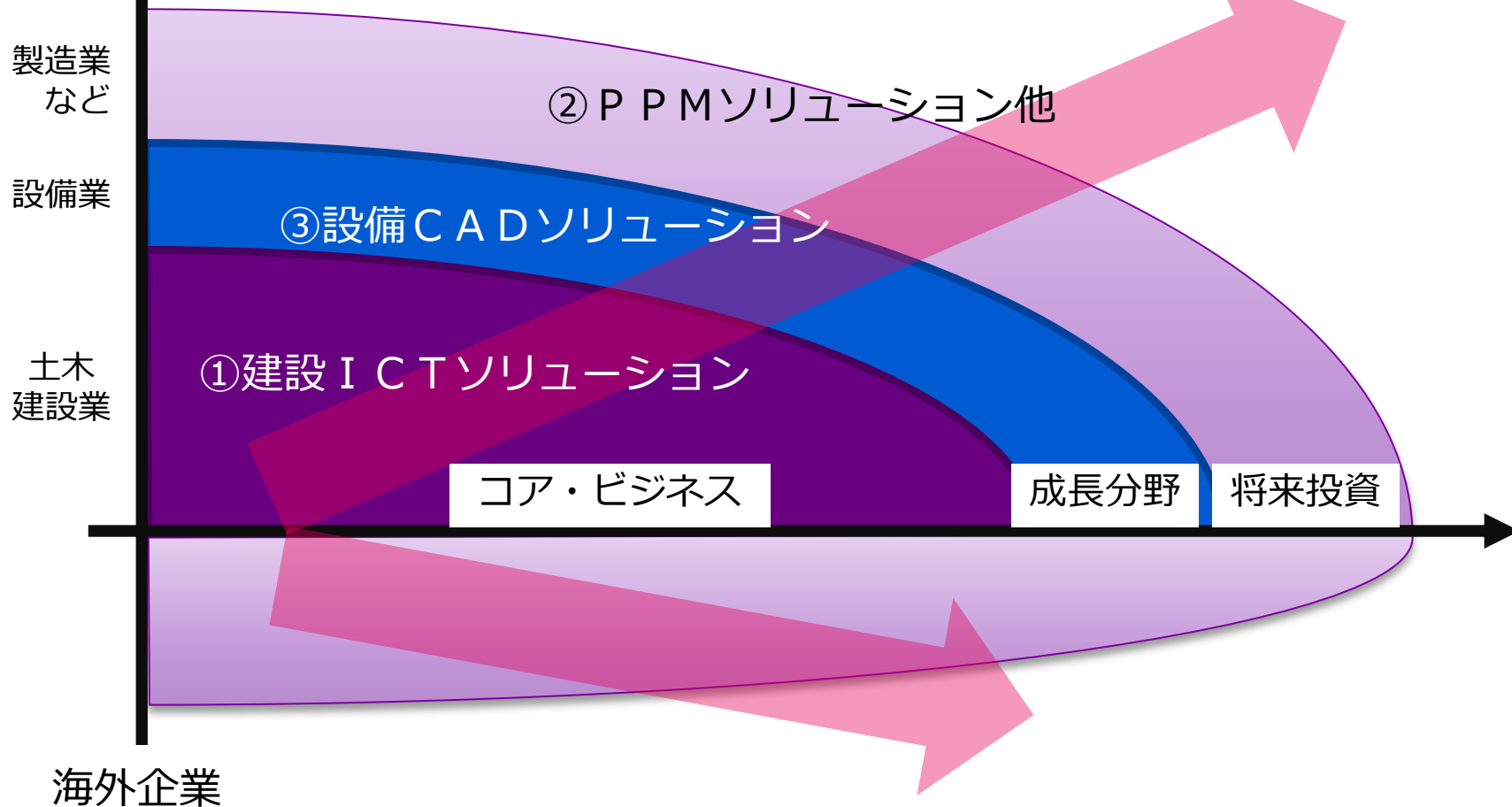
事業別売上高 (単位：百万円)



各事業の位置付け

国内事業者

ニッチ市場で高いシェアを獲得することで、高付加価値型のビジネスを追及しています。



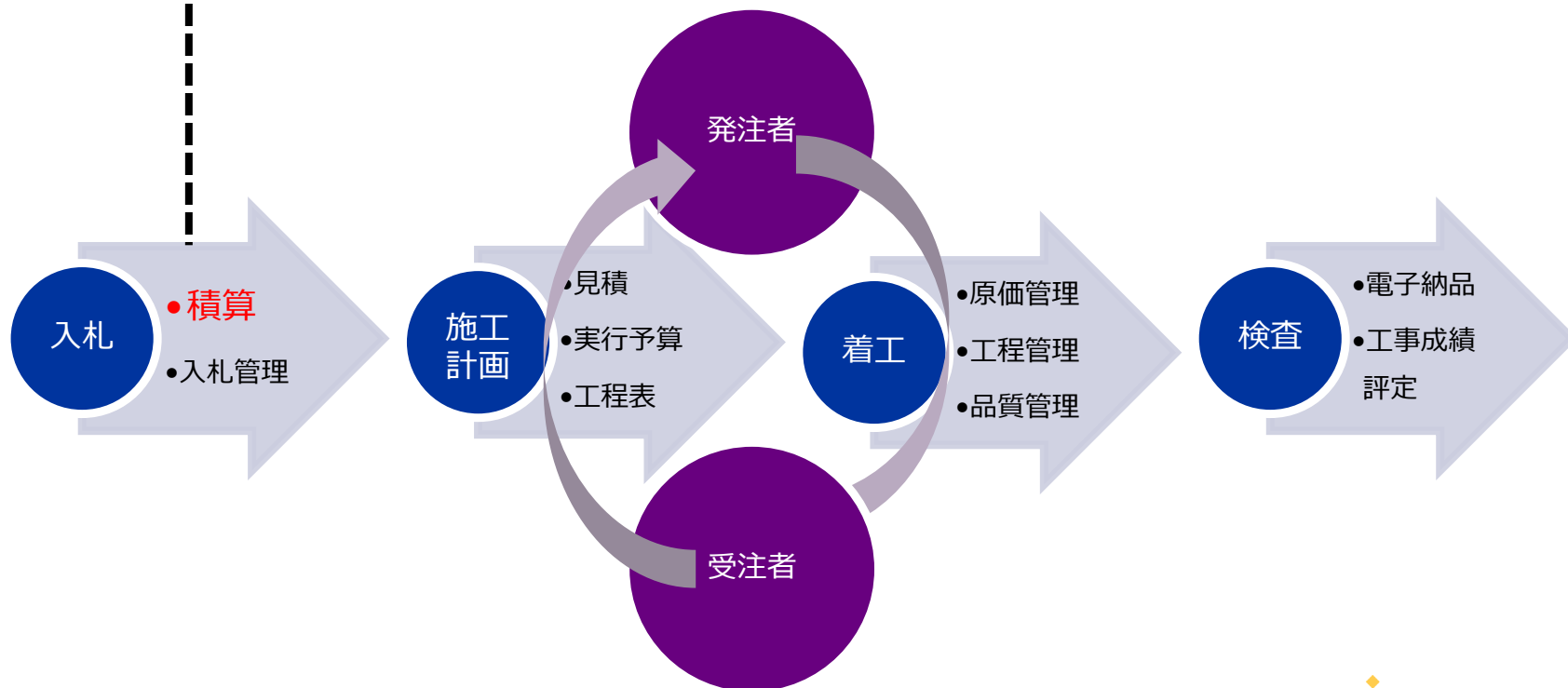
建設ICTソリューションの概要

当社グループのコア・ビジネス：土木建設業向けのソリューション群

最上流工程である「積算」において高いシェアを持つGaia9を起点とするソリューション群を展開

Gaia9

土木工事積算ソフトのトップ・ブランドとして、
1万社超に導入

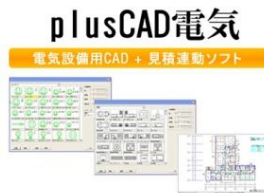


土木工事積算システム

Gaia9

- 土木工事（道路、港湾、トンネル、ダムなど）の大半が公共事業。
- 地形、土質、現場環境などの条件に左右されるため、同じ工事は2つとない。
- 会計法により公共事業の発注には「入札」手続きが必須。
- 「入札」金額の計算には、現場ごとに異なる上記の条件を反映できるように、詳細な「積算基準」が定められ、公表されています。
- Gaia9は「積算基準」に沿って、入札金額を算出するためのソフトです。
- 基本的に、入札に参加する土木建設業者が対象顧客となります。

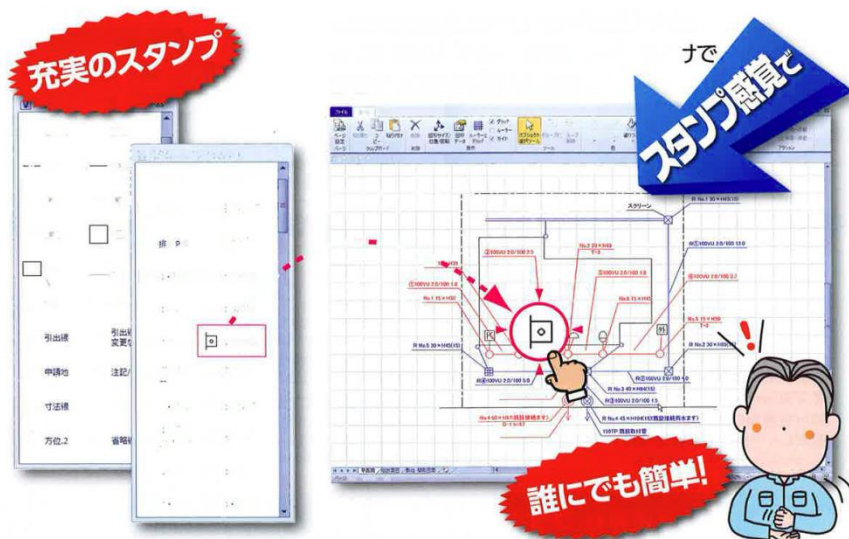
※参考資料の「土木工事積算について」もご参照ください



- plusCADは、住宅の水道工事、電気工事を行う工務店様向けのCADソフトです。
- 申請書類（市町村、電力会社向け）の作成に特化することで、簡単な操作性と他ソフトにない作業効率を実現しています。

お客様にダイレクトに販売し、徹底したサポートを行うことで、顧客満足度を高め高付加価値につなげています。

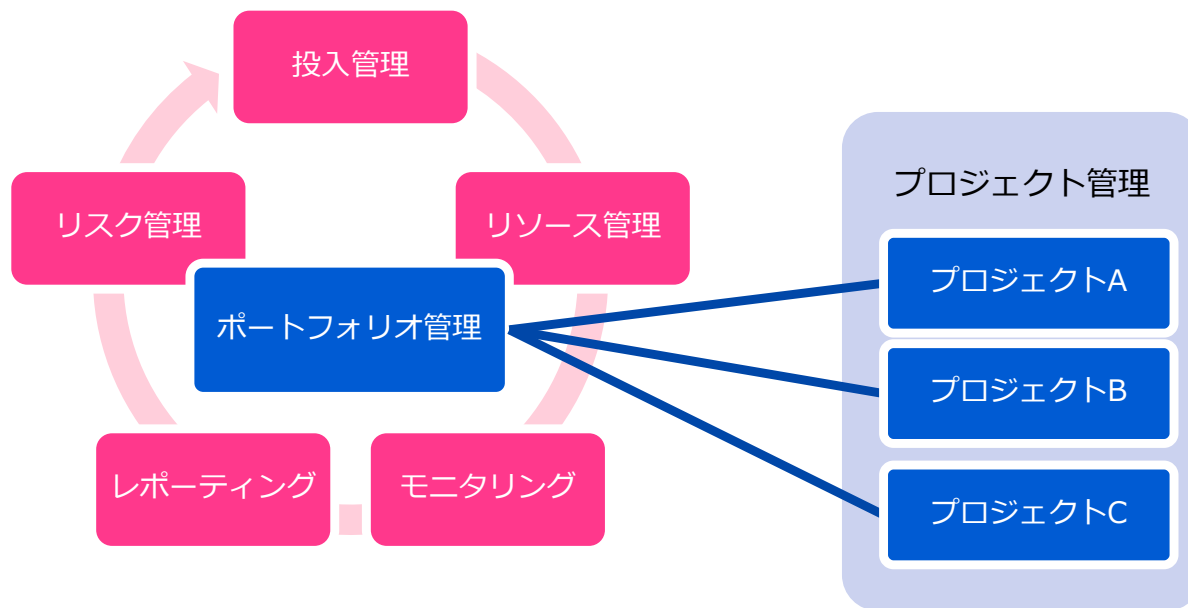
- 工務店は業者数が多く、IT化が比較的遅れているため、新規顧客が望める有望な市場です。



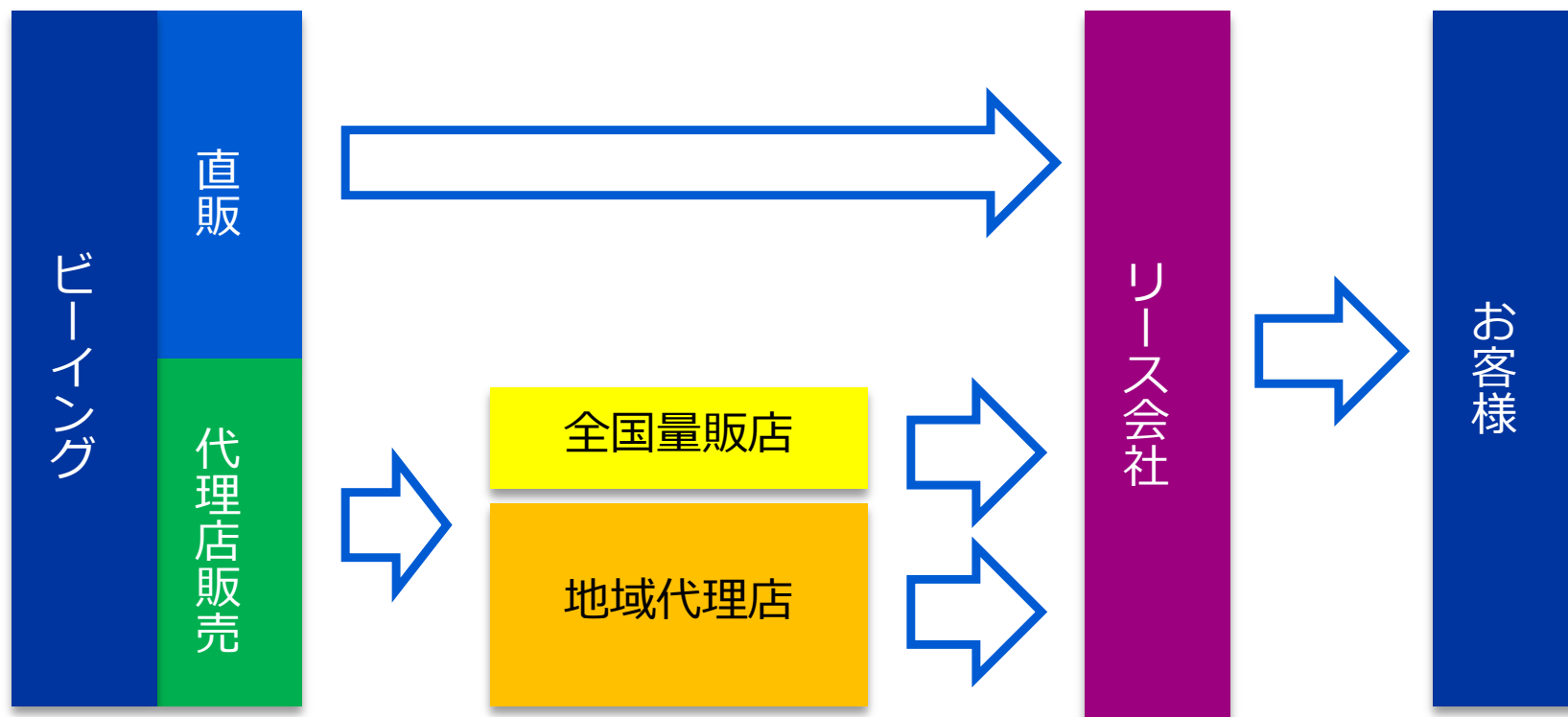
プロジェクト・ポートフォリオ・マネジメント



- プロジェクト・ポートフォリオ・マネジメント（Project Portfolio Management）は、企業内の複数のプロジェクトを統合的に管理。「今どのプロジェクトに対して何が必要か」といった、経営トップ層の意思決定をサポート。企業の生産性向上に役立ちます。



建設ICTソリューションの商流について




1. 特定取引先に偏らないバランスのとれた流通網
2. リース販売によって、貸し倒れリスクを極小化
3. リースアップ時の更新販売が可能
4. リース期間中のメンテナンス費用は「前受収益」として計上。
健全な財務基盤を構築

2016年3月期 連結業績の概要

☑ 5期連続増収も、期初計画には届かず。

☑ 開発投資を進めているため、営業、経常利益は約13%減

(単位：百万円)

	2014年3月期 実績	2015年3月期 実績	2016年3月期 期初計画	2016年3月期 実績	前期比	期初計画比
売上高	4,707	4,759	5,200	 4,857	2.1%増	△342
営業利益	606	611	630	532	12.9%減	△97
売上高 営業利益率	12.9%	12.8%	12.1%	11.0%	—	—
経常利益	616	623	640	541	13.1%減	△98
当期純利益	422	518	420	508	1.9%減	+88
自己資本 当期純利益率	18.6%	19.2%	—	16.4%	—	—
1株当たり 当期純利益	53.73円	65.94円	53.41円	64.67円	△1.27円	+11.26円
年間配当	15.0円	15.0円	15.0円	15.0円	±0円	±0円

四半期毎の連結業績の推移

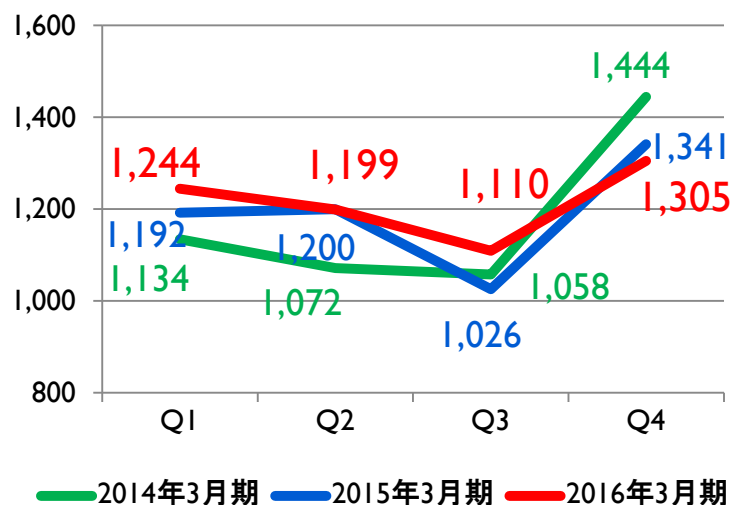
☑ トップラインはQ3で伸長、Q4で低下

☑ Q4のトップラインが伸びなかったことにより営業利益は減益

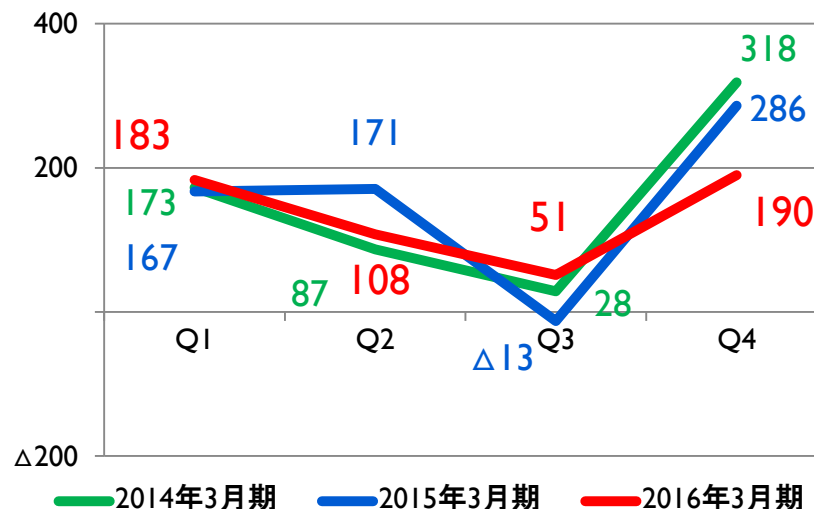
(単位：百万円)

	2014年3月期 実績	2015年3月期 実績	2016年3月期 期初計画	2016年3月期 実績	前期比	期初計画比
売上高	4,707	4,759	5,200	4,857	2.1%増	△342
営業利益	606	611	630	532	12.9%減	△97

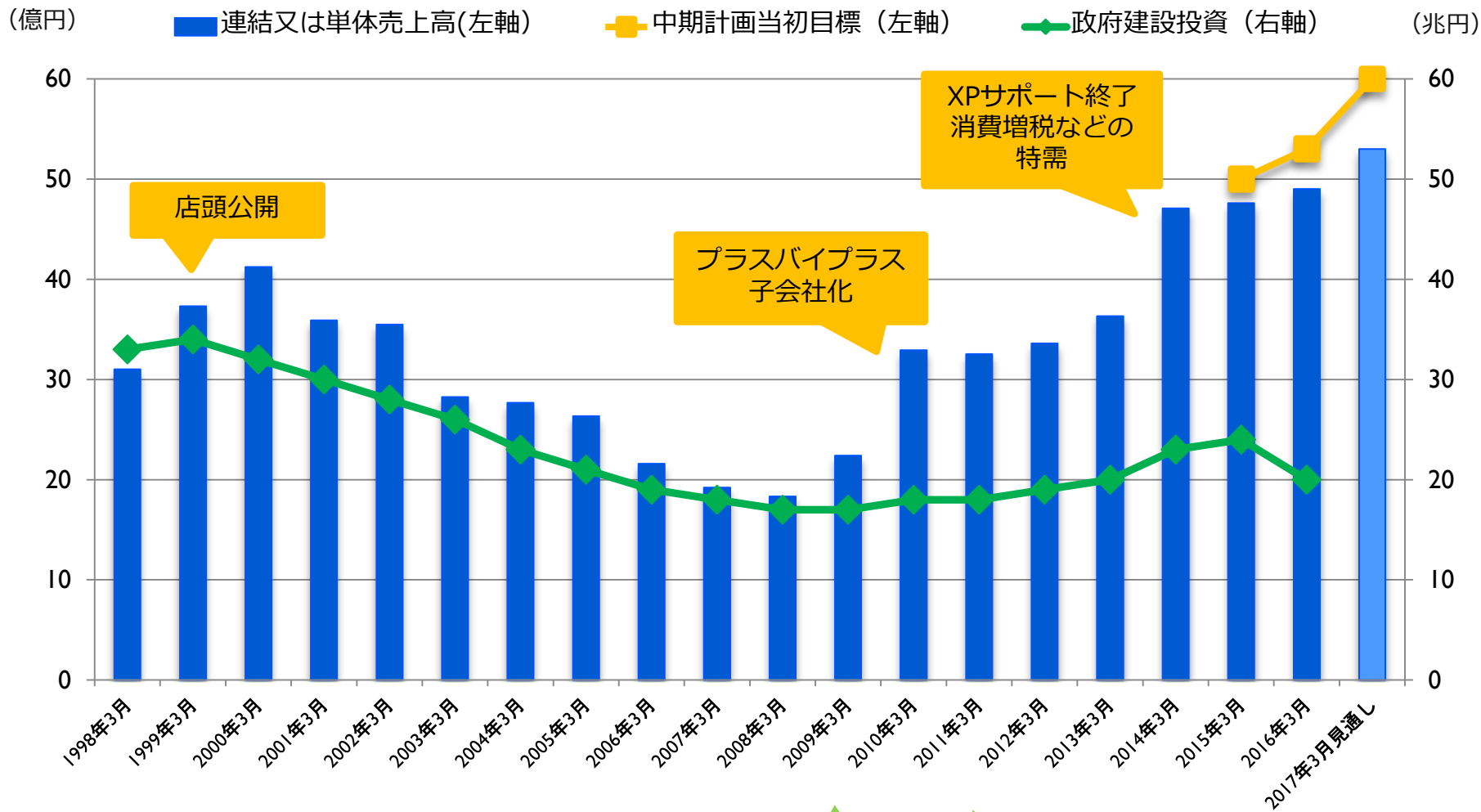
■ 連結売上高の推移



■ 営業利益の推移



売上高の長期トレンド



2000年問題
ITバブル

ITバブル
崩壊

リーマン
ショック

東日本
大震災

XPサポ
ート終了

中期経営計画からのかい離とその要因について

(単位：百万円)

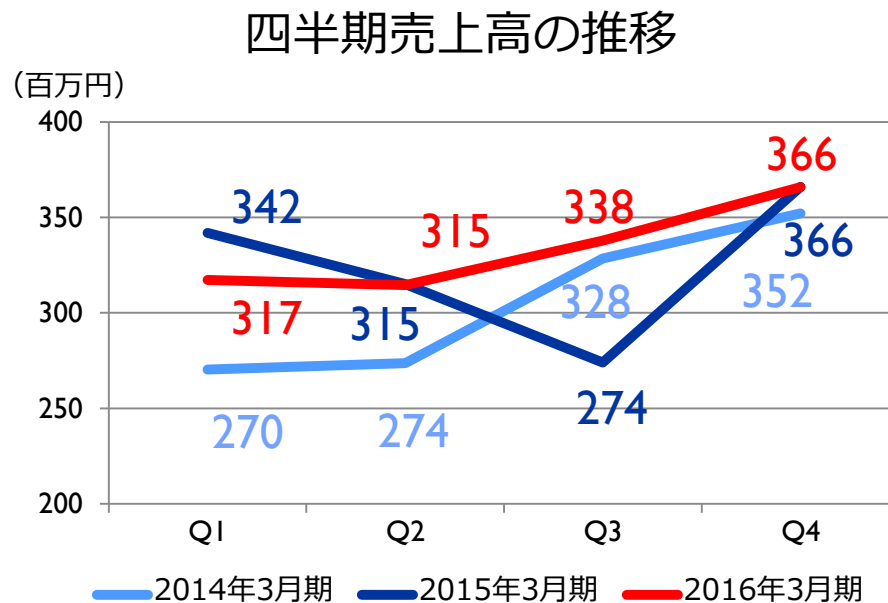
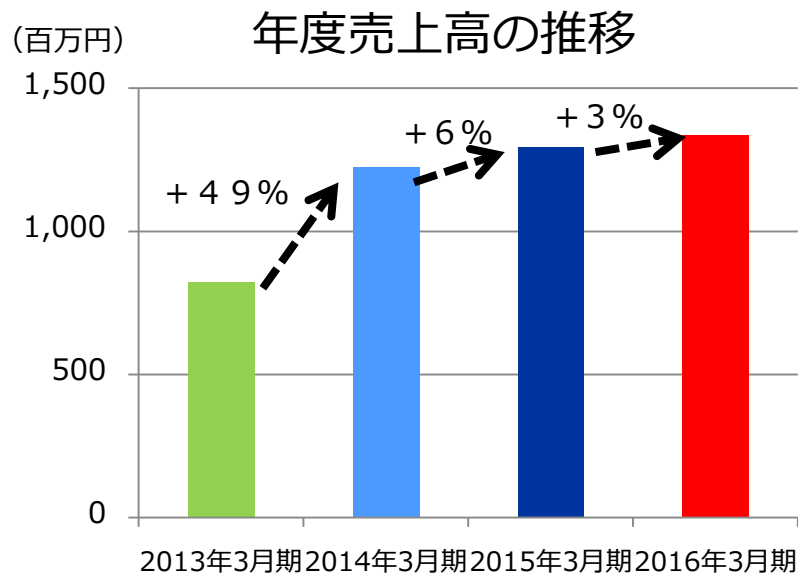
	2014年3月期 実績	2015年3月期 計画	2015年3月期 実績	2016年3月期 計画	2016年3月期 実績	2017年3月期 当初計画	2017年3月期 修正計画
売上高	4,707	5,000	4,759	5,200	4,857	6,000	5,300
営業利益	606	620	611	630	532	1,000	540
売上高 営業利益率	12.9%	12.4%	12.8%	12.1%	11.0%	16.7%	10.2%
経常利益	616	640	623	640	541	1,020	550
当期純利益	422	430	518	420	508	660	300
自己資本 当期純利益率	18.6%	16.0%	19.2%	14.0%	16.4%	19.0%	9.1%

当初計画から概ね1年～1年半の遅れが出ている

その要因は、設備CAD分野の足踏みと、製品開発の遅れによるもの

設備CADに関しては、本業に力を集中させ回復傾向に。

設備CAD分野の成長力回復に向けて



やるべきことを明確化

- ① 一部の不採算サービスを停止
- ② 新商品は「建設マネージャー」に集中
- ③ 新人の早期戦力化

2017年3月期 業績予想について

- ☑ 設備CAD分野を再び高成長路線に乗せる
- ☑ 積極的な製品開発投資を継続
- ☑ オフショアを含めたグループ全体の開発リソースの最適活用

(単位：百万円)

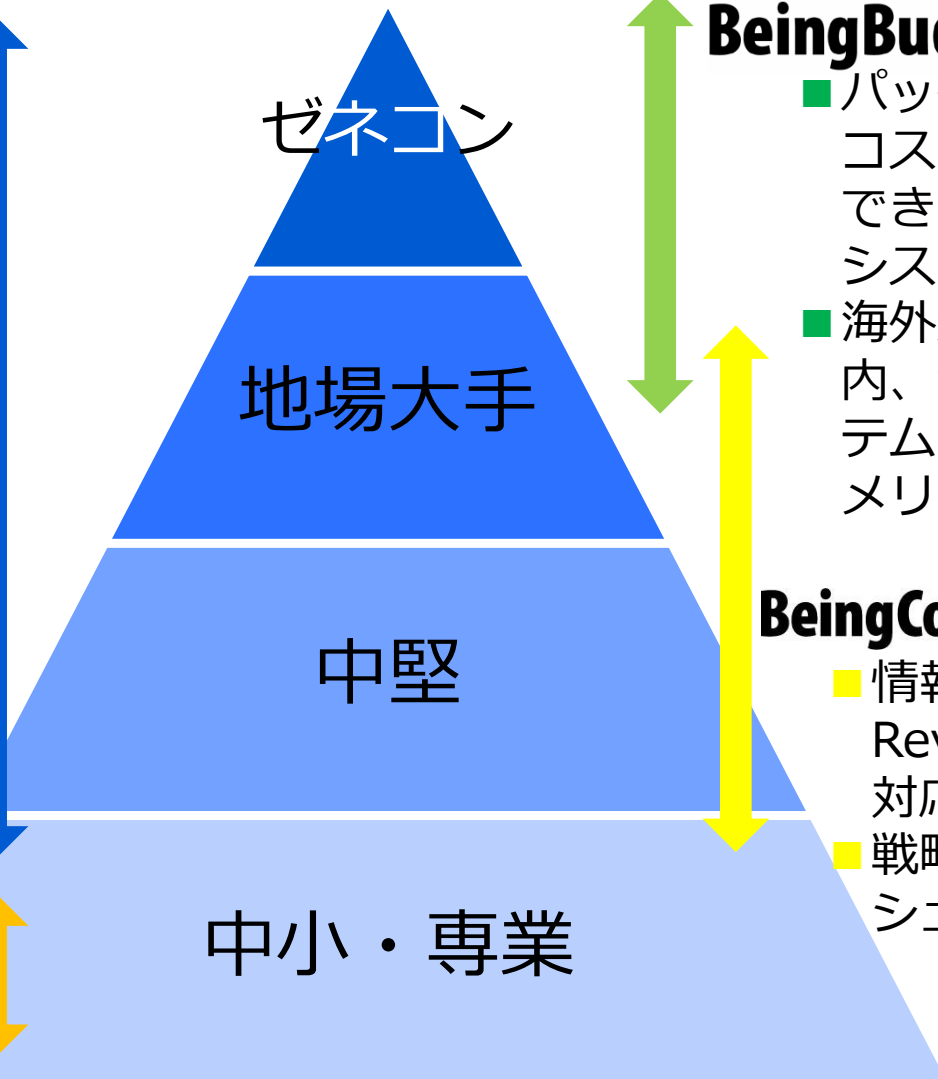
	2016年3月期 実績	2017年3月期 予想	前期比
売上高	4,857	5,300	9.1%増
営業利益	532	540	1.5%増
売上高 営業利益率	11.0%	10.2%	—
経常利益	541	550	21.5%増
当期純利益	508	300	41.0%減
1株当たり 当期純利益	64.67円	38.15円	△26.52円

コア・ビジネス（建設 I C T）における販売戦略

Gaia9

- ブランド力のある「Gaia」をさらに訴求
- 地域ニーズ対応（ローカライズ）による継続的な競争力向上

- 水道専門業者には、プラスバイプラスからもアプローチ



見積・実行予算システム

BeingBudget

- パッケージ化により低コストで導入・運用ができる見積・原価管理システムを提案
- 海外進出企業には、国内、海外問わず同システムで運用できるメリットを訴求



BeingCollaboration®

- 情報共有基準案 Rev4.0にいち早く対応
- 戦略商品としてシェア拡大を図る



BeingBudget の展開

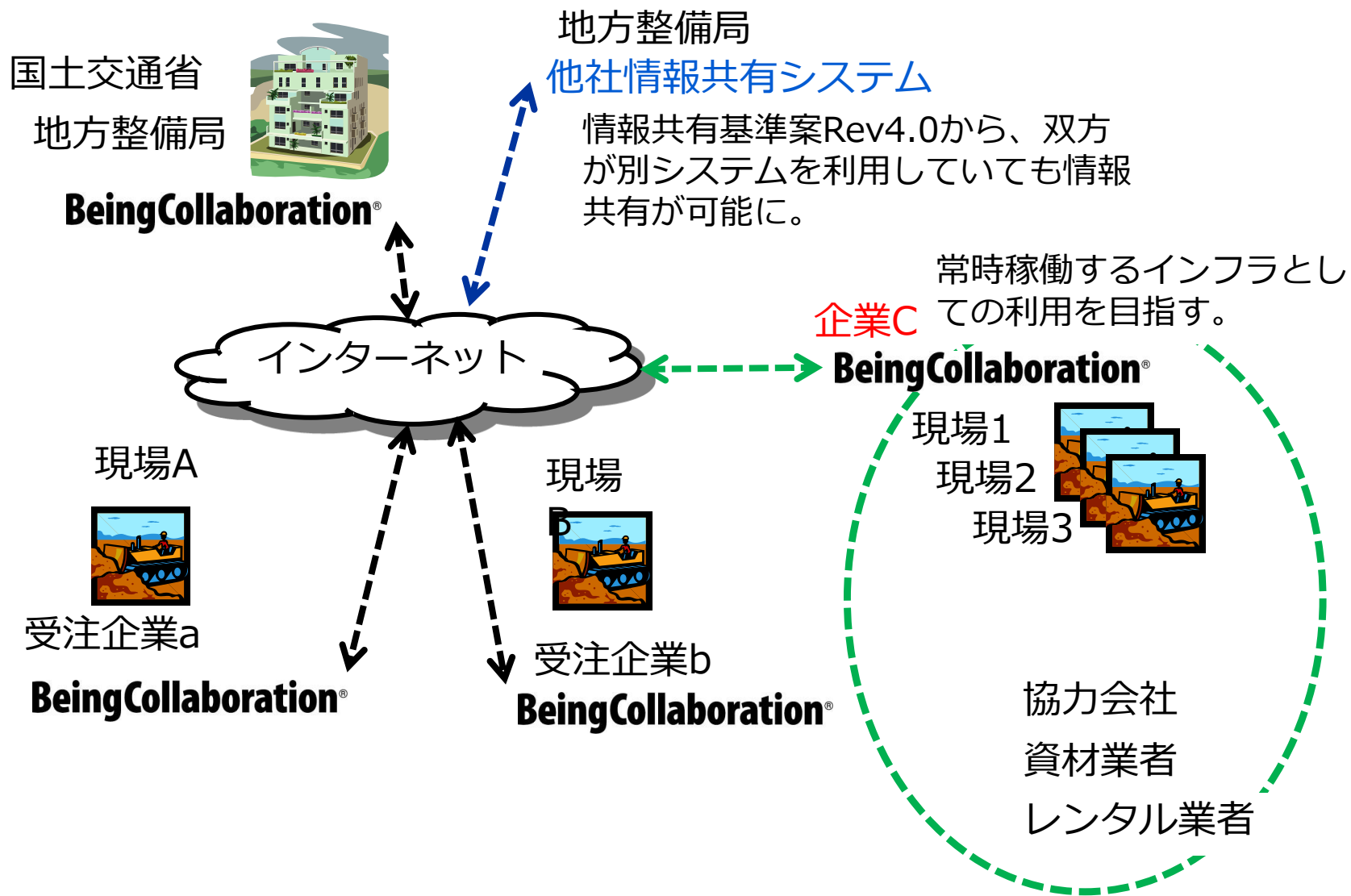
見積・実行予算システム

BeingBudget

積算データから、容易に実行予算書を作成、原価管理までデータ連携を実現

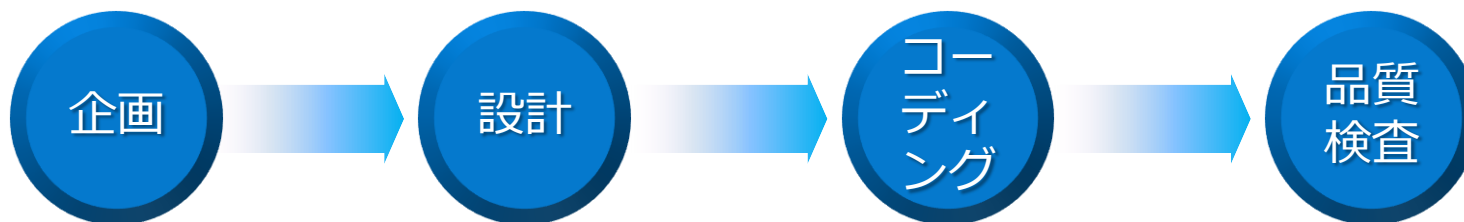
- ◆ゼネコン層に強いG a i aのシェアをB u d g e tに展開
- ◆機能を部品化することにより、導入期間、コストを抑え
地場大手まで、系列を通じて中堅層までの浸透を目指す
- ◆建設設備業など、土木以外の大手企業へもアプローチ

BeingCollaboration は、戦略商品としてシェア・アップに取り組む



コア・ビジネス（建設 I C T）における開発戦略

開発スタイルの変革



すべて内製していたものを、コーディング部分は外注を積極活用
設計完了から、市場投入までの期間を短縮

オフショア開発拠点「ビーイングミャンマー」の活用

ミャンマー最大都市ヤンゴンに開設 社員数38名
積算基準の改定やローカライズ戦略の進展により、開発量が増大
→G a i a 開発の一部をミャンマーに移管

将来的には、国内開発は企画・設計中心とし、
コーディングはオフショアを積極活用していく計画

配当に対する考え方

グループの年間業績に応じた配当を行うために、年1回の期末配当を基本とし、将来の事業展開を勘案しつつ、税金等調整前当期純利益の20%～30%を目安として配当を行う方針であります。

	2014年3月期	2015年3月期	2016年3月期
税金等調整前当期純利益	543,502	585,951	525,610
1株当たり配当金	15.0円	15.0円	15.0円
配当総額	117,969	117,960	117,960
税金等調整前当期純利益からの配当率	21.7%	20.1%	22.4%

2017年3月期は、1株当たり16.0円の配当を計画
事業の進捗を見つつ、複数年かけて、税金等調整前当期純利益に対して
30%に近い配当水準にしていく予定

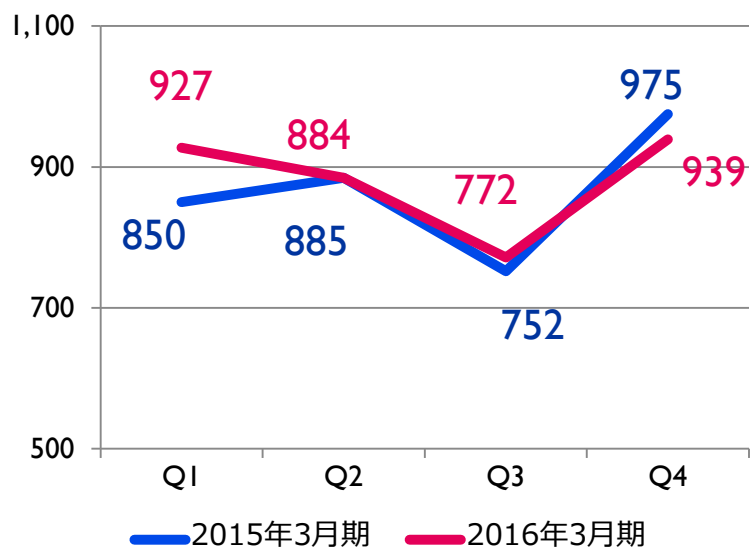
參考資料

建設関連セグメントの概要

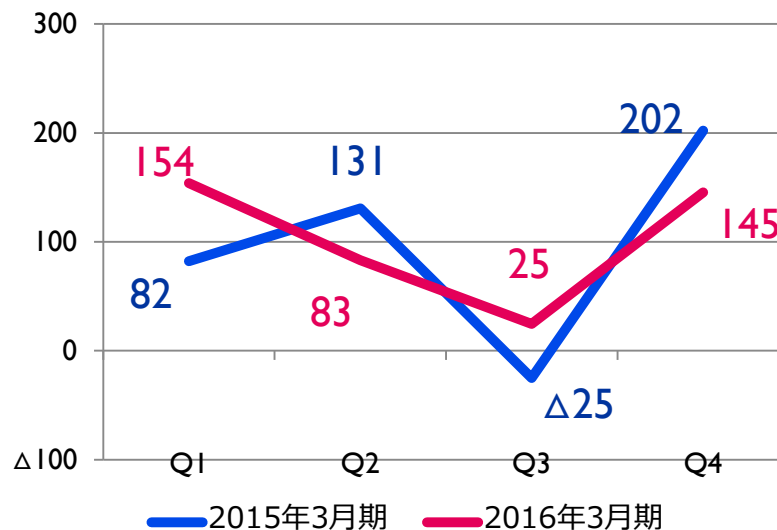
- 品確法^(※)の改正によるニーズ高まりもあり、コア・ビジネスが堅調
(※品確法：公共工事の品質確保の促進に関する法律など)
- 長く続いた第三四半期のセグメント損失を解消 (単位：百万円)

	2014年3月期	2015年3月期	2016年3月期	前期比
売上高	3,483	3,462	3,522	1.7%増
セグメント利益	360	390	406	4.2%増

■セグメント売上高の推移



■セグメント利益の推移



設備関連セグメントの概要

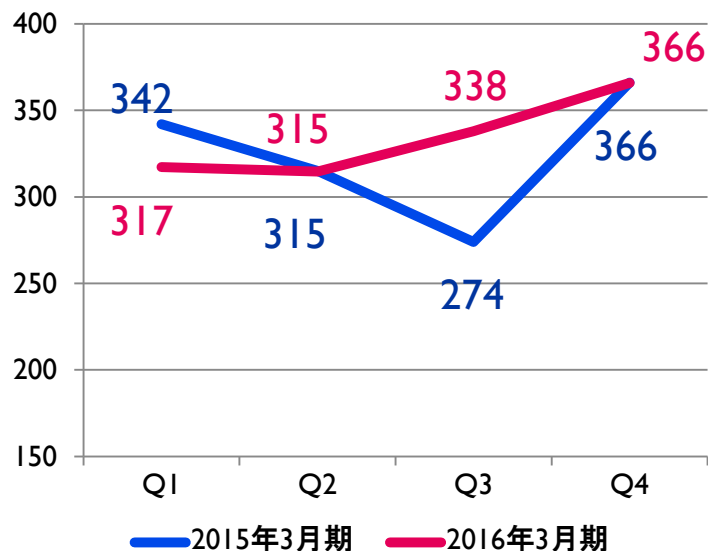
☑ 前期比、約3%の売上成長、特に下期から復調傾向

☑ 積極的な営業人員投入も、利益寄与までは及ばず減益

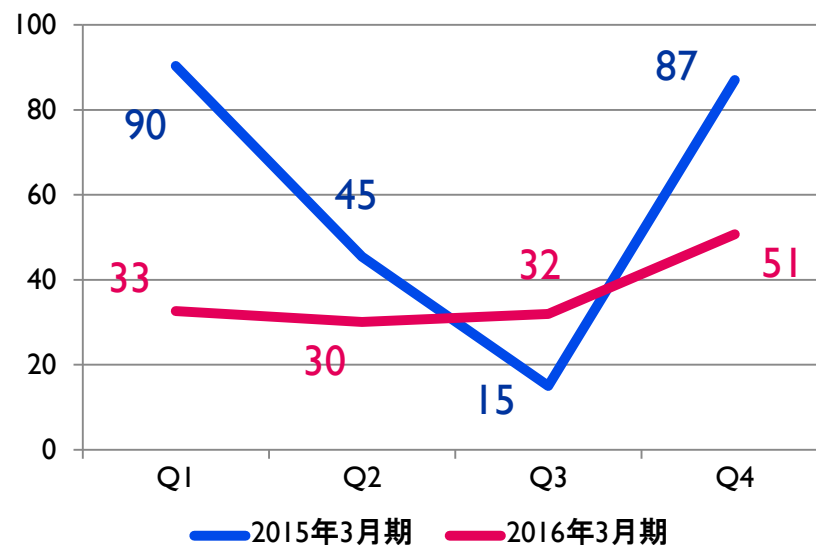
(単位：百万円)

	2014年3月期	2015年3月期	2016年3月期	前期比
売上高	1,224	1,296	1,335	3.0%増
セグメント利益	266	237	145	38.8%減

■ セグメント売上高の推移



■ セグメント利益の推移



要約貸借対照表・要約キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位：百万円)

	2015年 3月期	2016年 3月期	前期比
流動資産	4,454	4,808	+354
固定資産	1,485	1,735	+249
有形固定資産	224	231	+6
無形固定資産	325	301	△23
投資その他の資産	935	1,202	+267
資産合計	5,939	6,543	+603
流動負債	1,439	1,553	+113
固定負債	1,590	1,695	+104
株主資本	2,901	3,292	+390
その他包括利益 累計額	7	2	△5
負債純資産合計	5,939	6,543	+603

(単位：百万円)

	2015年 3月期	2016年 3月期	前期比
営業活動による キャッシュ・フロー	517	548	+30
投資活動による キャッシュ・フロー	△192	△205	△13
財務活動による キャッシュ・フロー	△118	△118	+0

■ 税効果会計上の会社区分を見直したことにより、長期の税効果資産 +228百万円

土木工事積算について

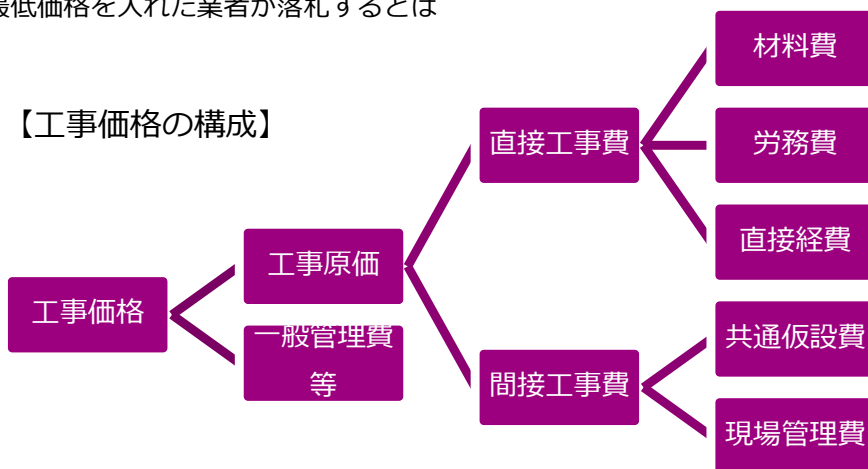
土木積算とは

土木工事のほとんどは、官公庁や現在は民営化された旧公団が発注者となるいわゆる公共工事です。そのため、施工業者の選定にあたっては「入札」が行われます。

入札にあたり、発注者は、工事に必要となる部材や作業単価と、独自に作成した歩掛りに基づいて工事価格を算出（これを「積算」という。）します。工事価格から官公庁の事務経費を除いた金額が予定価格とされ、入札の際の上限価格となります。また、工事価格から一定の割合を控除した金額を最低価格とし、入札においてこの範囲内で最も低い価格※を提示した業者が落札者となります。

したがって、工事を獲得しようとする建設業者にとっては、発注者が積算した予定価格を推計することが工事獲得の第一歩となります。

※総合評価落札方式の下では、過去の実績など価格以外の要素も考慮されるため、必ずしも最低価格を入れた業者が落札するとは限りません。



積算基準

積算は、非常に複雑な業務です。

- 発注する官公庁ごとに異なる積算基準が公表されており、それぞれの基準に合致した計算が求められます。

- 使用する部材単価は、工事を行う地域によって単価が異なる上に、ほぼ毎月改定が行われます。

- 工種と呼ばれる作業のまとまりごとに、作業内容や現場の性質に応じた単価や歩掛りが細かく区分されており、一つ一つ適切な単価と歩掛りを組み合わせる必要があります。

- 一定の工種のまとまりごとに、間接工事費を計算する必要があり、工種内の計算を修正した場合、間接工事費にも影響が及びます。

工事全体の積算は、これら膨大な組み合わせの結果として成り立っており、その計算には非常に大きな手間が必要となります。

本資料に関するご注意

本資料の内容は、現在入手可能な情報から当社の経営陣が判断したものであり、その内容の正確性を保証するものではありません。

様々な要素により将来の事業を取り巻く環境が大きく変動することもあります。従いまして、将来の業績や結果につきましては、本日ご説明する内容と異なる可能性があることをご了承ください。

— 本資料に関するお問合せ先 —
株式会社ビーイング 管理本部 IR担当
TEL：059-227-2932
FAX：059-227-2907